

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2025」

オンライン訪日プログラム

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2025」の一環として、
 オンラインを活用した約90分のウェビナー形式で、対日理解促進を目的に
 日本が強みを有するさまざまなテーマ（経済・社会・歴史・先端産業・伝統産業）の専
 門家による講演や活発な意見交換が実施されました。

【開催概要】

実施日	分野	講演テーマ
2025年		
11月28日	コンテンツ産業	日本のコンテンツ産業の現在と未来
12月09日	スマート農業	日本の農業の未来を支えるテクノロジー ：スマート農機について
12月23日	ヘルスケア産業	日本における高齢者向けビジネスの現状と課題
2026年		
1月09日	伝統工芸	日本の伝統工芸の現在と未来 ：漆器産地・輪島を中心に
1月23日	宇宙	民間企業による月への挑戦 —宇宙分野でも加速する日台連携—
2月04日	少子化対策、 都市デザイン	定住人口を増やすマーケティング戦略
3月04日	観光	鉄道・駅がつなぐ、地域のくらしとまちづくり
3月16日	エネルギー	社会実装に向けたペロブスカイト太陽電池の開発

2. 実施詳細 ※開催時間はすべて台湾時間(GMT+8)

【第1回 コンテンツ産業】

実施日時：2025年11月28日 18:00～19:30

講演テーマ：日本のコンテンツ産業の現在と未来

講師：経済産業省文化創造産業課 藤井 亮介氏

参加申込人数：123名

実施内容：世界及び日本のコンテンツ産業の現状・環境の変化、日本政府におけるコンテンツ産業振興に関する動きと経済産業省におけるコンテンツ産業政策の推進についての講義後、質疑応答。

SNS 発信数：Facebook 7件、Instagram 6件

参加者の感想（部抜粋）

普段は主にアニメを視聴する立場から、日本はこの分野においてすでに非常に成熟しているものだと思っていましたが、今回の講座を通じて、実はまだ多くの課題と発展の余地があることを知りました。さらに、コンテンツ産業が生み出す周辺経済についても、民間企業だけでなく、政府による支援や助成が大きな役割を果たしているという点は、非常に印象的でした。

【第2回 スマート農業】

実施日時：2025年12月9日 17:30～19:00

講演テーマ：日本の農業の未来を支えるテクノロジー
スマート農業について

講師：ヤンマーアグリ株式会社商品企画部プロモーショングループ
大岡 彩夏氏

応募人数：81名

実施内容：現在の日本の農業が抱えている課題についての説明と、スマート農業機械の可能性と実際の事例などを交えた講義後、質疑応答。

SNS 発信数：Facebook 6件、Instagram 3件、Threads 1件

参加者の感想（抜粋）

日本農業が直面している課題や、それに対する解決策を学ぶことは、将来台湾の農業が直面する可能性のある問題に対する提案として活用できると考えています。

その意味でも、非常に重要で意義のある取り組みだと感じました。

【第3回 ヘルスケア産業】

実施日時：2025年12月23日 18:00～19:30

講演テーマ：日本における高齢者向けビジネスの現状と課題

講師：株式会社日本総合研究所高齢社会イノベーショングループ
部長 紀伊 信之氏

応募人数：79名

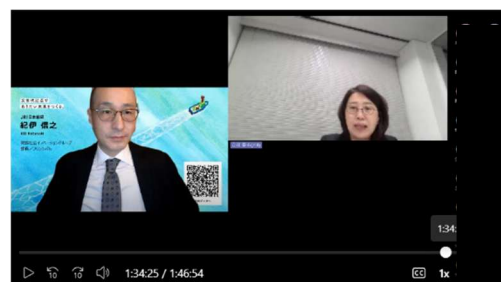
実施内容：現在の日本における高齢者向けビジネスの現状と課題、未来展望についての講義後、質疑応答。

SNS 発信数 : Facebook 10 件、Instagram 7 件、その他 4 件

参加者の感想 (抜粋)

今回の日本の高齢化トレンドに関するオンライン講座は、私の介護・長期ケア分野に対する考え方を根本から変えるものでした。

これまで私は、介護関連の学科へ進学することに対して、迷いや、時には抵抗感さえ抱いていました。過去の認識では、介護の仕事は基本的なケアサービスに限られ、業務の繰り返しが多く、将来の発展性も限られているように感じていたからです。しかし、本講座を通して、日本が超高齢社会という課題にどのように向き合っているのかを、深く学ぶ中で、介護産業には実は無限のイノベーションの可能性が秘められていることに気づかされました。



【第4回 伝統工芸】

実施日時 : 2026年1月9日 18:00~19:30

講演テーマ : 日本の伝統工芸の現在と未来 : 漆器産地・輪島を中心に

講師 : 金沢美術工芸大学教授 山崎剛氏

応募人数 : 129名

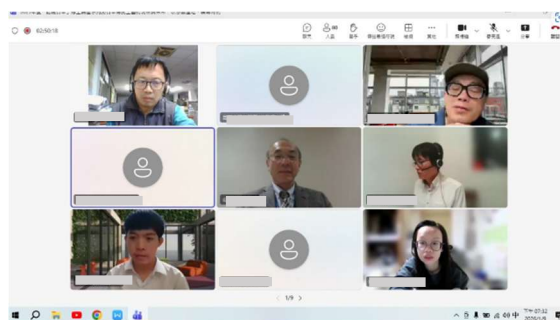
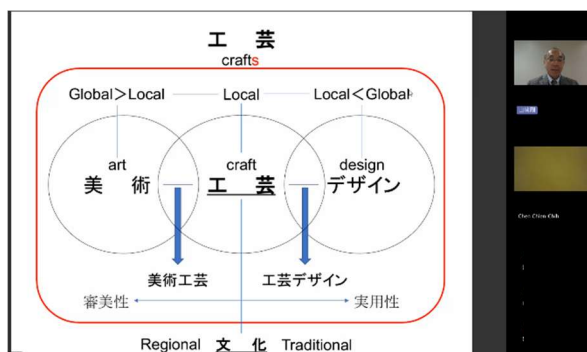
実施内容 : 日本の伝統的な工芸をめぐる国の施策、および工芸技術の継承や工芸産業の振興の現状について、「漆」の工芸技術を中心に漆器産地として知られ、能登半島地震の被災地である「輪島」における、未来へ向けた取り組みを紹介後、質疑応答。

SNS 発信数 : Facebook : 14 件、Instagram 7 件、その他 4 件

参加者の感想 (抜粋) : 今回の講座を通じて、日本が伝統工芸文化を守り続けてきた道のりや、その中での苦労について、より深く理解することができました。

特に輪島塗についての理解が深まり、その価値を改めて実感しています。

今後は、友人とも輪島塗や日本の伝統工芸について、より踏み込んだ形で語り合うことができると思います。



実施日時 : 2026年1月26日 18:00~19:30

講演テーマ : 民間企業による月への挑戦—宇宙分野でも加速する日台連携—

講師：株式会社 ispace 事業開発部門シニアマネージャー 浦田真幸氏

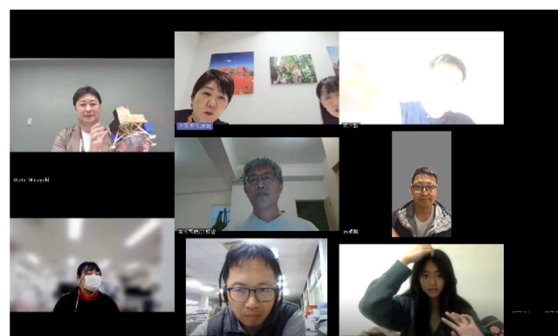
応募人数：66名

実施内容：、民間企業による宇宙への挑戦、同社の取り組みや今後の展望、宇宙開発分野における日本と台湾の連携の様子などについての講演後、質疑応答。

SNS 発信数：Facebook 10件、Instagram 3件、その他 4件

参加者の感想（抜粋）：日本と台湾・国立中央大学の張主任の研究チームが協力していることを知り、非常に嬉しく思いました。

日台の連携によって、今後素晴らしい成果が生まれることを期待しています。



【第6回 少子化対策・都市デザイン】

実施日時：2026年2月4日 17:30~19:00

講演テーマ：定住人口を増やすマーケティング戦略

講師：千葉県流山市総合政策部兼マーケティング課 部長 若林 克彦氏

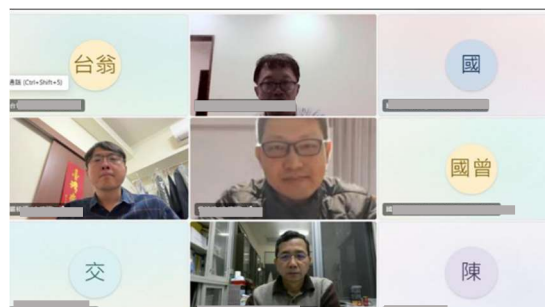
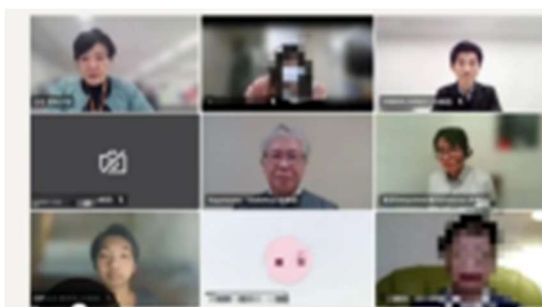
応募人数：92名

実施内容：自治体として全国に先駆けて戦略的なブランディングを行ってきた同市の取り組みについて講演後、質疑応答。

SNS 発信数：Facebook 10件、Instagram 4件、その他 1

参加者の感想（抜粋）人口構造が急速に変化する時代において、地方創生はもはや単なるスローガンではなく、戦略、コミュニケーション、そして長期的な視点を融合させた「システムとしての取り組み」が求められていると感じました。

今回の講座を通じて、自治体が「マーケティング思考」をもって都市経営を行う可能性を目の当たりにすると同時に、一つの都市がどのように選ばれ、そして人々に「住み続けたい」と思われる存在になり得るのかについて、改めて考えるきっかけを得ました。



【第7回 観光】

実施日時：2026年3月4日 18:00~19:30

講演テーマ：鉄道・駅がつなぐ、地域のくらしとまちづくり

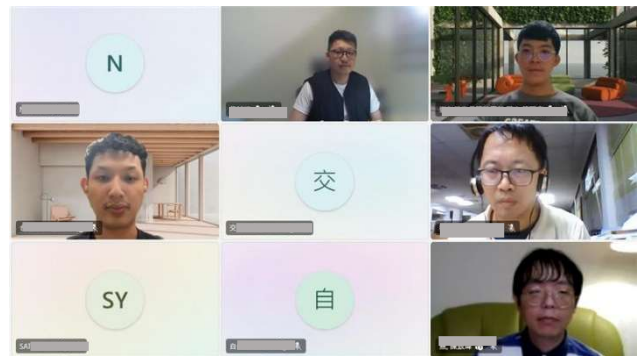
講師：JR 東日本創造旅遊 董事長兼総経理 村上 拓也氏

応募人数：106名

SNS 発信数：Facebook 7件、Instagram 3件、その他 3件

実施内容：JR 東日本の紹介、駅・鉄道を起点とした地方創生について講義後、
質疑応答

参加者の感想（抜粋）：台湾にも比較的辺鄙な村や町が多く存在します。駅と連携した地域活性化（コミュニティ・ビルディング）を検討することで、地方に住民を留め、地域にビジネスチャンスをもたらすことが期待できると感じました。



【第8回 エネルギー】

実施日時：2026年3月12日 18:00~20:00

講演テーマ：社会実装に向けたペロブスカイト太陽電池の開発

講師：桐蔭横浜大学 特任教授／東京大学 先端科学技術研究センター フェロー

宮坂 力氏

応募人数：101名

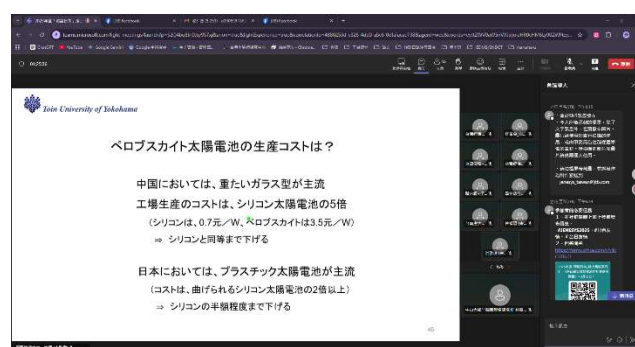
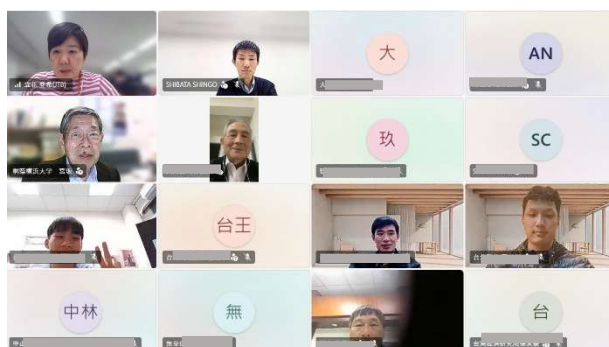
SNS 発信数：Facebook 16件、Instagram 8件、その他6件

実施内容：従来の太陽電池と異なり、軽量で曲げることができるという特徴があり、現在、さまざまな研究や実証実験などが進み、事業化に向けた動きが本格化しているペロブスカイト太陽電池についての講義と質疑応答。

参加者の感想(抜粋)：宮坂力教授は講義の中で、ペロブスカイト技術の応用について、現在市場に出回っている同様の機能を持つ製品(例：LED)との違いを非常に明確に説明されており、さらに国際的な視点から、各国および各産業における機能性や研究開発成果の進捗状況を比較されていた点が大変印象的でした。

教授は研究者として学術研究に取り組むだけでなく、研究開発の成果をいかに産業との連携へと結びつけていくか、その重要性を強く訴えられていました。特に、低コストで汎用性の高い材料は、産業界において企業から高く評価される要素であり、プレゼンテーションの図表では、各材料にかかるコストやエネルギー消費についても非常に詳細に解説されていました。

今後ペロブスカイト関連技術が農業分野、医療材料、住宅用建材など、さまざまな領域へ応用されていく可能性に大きな期待を抱くようになりました。さらに、こうした技術が将来的に広く普及し、世界的な低炭素エネルギーへの転換を加速させ、持続可能なグリーンエネルギー社会の実現につながることを強く願っています。



実施団体：株式会社 JTB